（様式１）

令和２年度学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第六小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	友達とのかかわりの中で児童が自ら考え、表現できるような指導内容の工夫を図る。 ＩＣＴなどの活用を通して、個別学習への深まりをめざす。	最終評価	
環境作り		主体的に児童が学び合う場と機会の設定を行うとともに、特別支援教育・ユニバーサルデザイン・個別学習の視点を取り入れた環境作りを行う。		

■　学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（１学年を除く）や６月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12 月）	年度末の取組評価（２月）
1	国語	学休校中の課題６月からの分散登校から平仮名を学習し、読み書きは学習済みである。 学７～９月に片仮名を学習し、現在漢字の学習を開始している。 学簡単な言葉をつなぎ、短い文を３～５文つなげて、文章にすることができるようになった。	・平仮名の形や発音は定着しているように感じるが、促音や長音、濁音、拗音の定着が課題である。 ・片仮名の定着には時間がかかっており、平仮名と混乱している様子がうかがえる。 ・読解力は伸びてきているが、登場人物の気持ちを想像し、音読や文章で表現する力はまだまだ課題である。	・文字の正確な習得と語彙を増やすために、プリントやドリルなどでの繰り返し学習により、正確な知識を身に付ける。 ・感想や手紙などを書く機会を多く設け、文章を書くことに慣れさせる。また、その時の気持ちを表現する文章を書くようにさせ、自己表現の幅を広げるよう指導する。 ・場面の要図に着目して、登場人物の気持ちや行動を具体的に想像することができるよう、登場人物の気持ちをより深く表現する読み方などを少人数グループで話合わせたり音読劇に取り組ませたりする。		
	算数	学数字の読み書きや数の概念の理解が早く、しっかりと定着している。 学繰り上がりのないたし算、ひき算は、定着している児童が多い。	・計算方法は定着しているが、時間がかかる児童もいる。 ・文章問題や考えたことの説明に難しさを感じる児童がおり、思考力が課題である。	・プリントやカードによる繰り返し行う計算練習を取り入れ、素早く正確に解くことができるよう指導する。 ・既習内容を用いて説明したり、立式したりできるよう、言葉の意味をしっかりと説明し、理解につなげる。また、各単元の学習内容に合わせて、１～３回程度ペアやグループで説明し合う機会を設ける。		
2	国語	学平仮名や片仮名の読み書きはほとんどの児童が習得できている。一方で、文章の中での句読点に苦手意識をもつ児童もいる。 学文章を書くことに意欲的な児童が多い。より書く能力を高めていくため、語彙力を増やしたり、接続詞や指示語に着目したりする意識を高める必要がある。	・句読点に気を付け、文章を書くことが課題である。 ・語彙力を高めることが課題である。語彙の量を増やすことで、文章に深まりをもたせる。また順序立てた文章を書くことが課題である。	・日直のスピーチ原稿は月に1回程度、学習のワークシートにほぼ毎日、文章を書く経験を行う。その中で、句読点を意識して書くことを継続して取り組む。 ・読書活動を推進し、相互交流等を生かして語彙を増やしていく。また、授業の中で1つの単語の理解を深め課題を改善していく。		
	算数	学計算の正確さ等二極化が見られる。繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算に苦手意識をもつ児童もいる。 学文章問題を苦手とする児童がいる。文章から問題を読み解いて、考える力に課題がある児童もいる。	・計算に時間がかかる児童がいる。頭の中で10の分割を繰り返し行う等、10の組成を意識し計算速度を上げることが必要である。 ・足し算なのか引き算なのか、自ら演算決定できるよう、文章問題を読み解く力を付ける。	・10の組成を意識し、繰り上がり繰り下がりの苦手意識をなくしていく。また、100マス計算などを取り入れて計算の速度を上げる。 ・文章を読み込むことから始める。全体でカギとなる言葉に着目したり、線を引いたりして文章問題の理解を深める。 ・自力解決の時間ではどのように立式するのかを考えたり、友達の意見を聞いて考え方を広めたりして、様々な考え方に触れさせる。		
3	国語	調すべての領域において、目標値を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の領域は、7.4 ポイント上回った。日頃から発表機会をたくさん設けていたことが要因だと思われる。	・「活用」の正答率が目標値を下回っている。中でも、意見を受けて、説明の文章を改善するという項目において課題が見られた。	・児童が頭の中で順序立てて思考できるような分かりやすい発問を意識する。 ・問題を解く際は、一つひとつ問われていることを確かめながら授業を進めていく。 ・日頃から話題の中心が何かを考えながら、文章を読んだり話を聞いたりさせる。		
	算数	調「数と計算」領域の繰り上がりのたし算、「量と測定」のものさしの目盛りの読み取り、単位の理解が目標値を下回っている。特に、単位の理解においては、20 ポイント低い。	・全体的な正答率は、区平均と同等である。計算の仕方は、理解しているものの、計算ミスが目立つ。単位の理解においては、復習が必要である。	・計算問題を繰り返し取り組み、計算力を高める。また、授業の初めには、四則計算のタイムトライアルなどを行うことで、さらなるで計算力の向上を目指す。 ・単位の理解においては、実際に測るなどの体験学習を増やし、実感を伴う理解へ結びつける。		
4	国語	調令和元年度の新宿区学力調査の結果から、「活用」の正答率が目標値に達していなかった。中でも大きくポイントを落としていたのが、「表現力」である。	・場面の様子を捉えて読むことや、書くことの中心を明確にした作文、さらに話題にそって意見と理由を考えて話すこと等、「読む・書く・話す」力の向上を目指す。	・授業では、根拠を明らかにして「読む」「書く」「話す」ことを習慣付けていく。授業中の問い返しや、友達からの質問の場を設定したり、作文などを読み合ったりすることで他者意識をもって学びながら、自分の考えと比較したり関連付けたりする学習を繰り返す。		

	算数	調令和元年度の新宿区学力調査の結果から、「数と計算」「量と測定」の領域において大幅にポイントを落としている。全体の目標値から見ても４ポイント近く低い。	・わり算の考え方についての理解を深めること。計算の処理はもとより、図表等で表しながら、わり算のしくみについての定着を図る。	・問題を解く道筋を表現し合う取り組みに力を入れる。答えを出すまでの考え方を明確にし、友達の意見と自分との比較をすることを通して、多様な考え方を学べるようにする。また、基礎的な計算処理においても継続して取り組んでいく。		
５	国語	調全体的に、教科の正答率は、目標値を超えている。しかし、言葉の学習の連体修飾語についての理解や、説明文の内容の読み取りにおいて、正答率が７割ほどなので、８割を目指す。	・文章の中からキーワードを探したり、答えの部分を見つけたりする方法が理解できていない。 ・主語、述語、修飾語などの使い方を知り、文を構成する力をつける必要がある。	・筆者の考えを読み取るために断定などの語尾を探し、重要な語句にラインを引いたり、文章構成を考えさせ、筆者の主張が書かれている場所を四角で囲んだりするなど、言葉の使われ方に意識を向けた読みを習慣付けていく。 ・主語、述語、接続詞や助詞など読み取るために必要な語彙力や使い方を知り、繰り返し宿題で定着を図る。		
	算数	調全体的に、教科の正答率は、目標値を超えている。しかし、わり算の計算や、図形の問題において、誤答が目立つ。 学文章問題への苦手意識がやや見られる。	・児童は学習しているときは問題を解くことができるが、授業が終わるとやり方を忘れてしまう傾向がある。そこで、学習内容の定着をより確実にしていく必要がある。	・文章問題が苦手な児童が多いので、問いの部分にラインを引かせ、聞かれていることを明確にし視覚的に捉えらやすいようにする。 ・個別最適化学習のプリントのテストや復習プリントを活用して知識の定着を図る。		
６	国語	調すべての領域において、目標値を上回っている。正答率は、昨年度課題としていた「話す・聞く」で 10 ポイント上昇。 ３分の２の児童が８０％以上。４０％を切る児童が数名。	・正答率４０％を切る児童数名への個別指導が課題。また、各領域偏りなく、系統的・計画的に継続指導ができるようカリキュラム調整をすることも鍵。	・コース（少人数）指導の講師との連絡調整に努め、領域のバランス、計画的指導を図る。 ・児童個々のよさを見取り、細やかな言葉かけを心掛けるとともに、漢字練習などへの取り組みへの励ましに努める。		
	算数	調すべての領域において、目標値を上回っている。正答率は、技能領域が昨年度より少し下がっていたが、他は５ポイント上昇。３分の２の児童は７０％以上。ややばらつきがある。	・「活用」が 10 ポイント以上上昇しているが、思考判断が 20 ポイント近くの上昇に対して、表現は５ポイントの上昇。バランスのよい指導により努めたい。	・単元の縦横のつながりや「算数の目」を大事に指導にあたり、児童が概念的理解に至れるように努める。 ・より主体的に算数に楽しむ心情・態度を育むことができるよう、学習している内容と日常生活との関わりを考える機会を多く設ける。		
音楽	・全学年、リズム奏や楽器の演奏についても、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。曲想と旋律の特徴や曲の構造を結び付けて考えることが身に付きつつある。 ・演奏することは好きだが、曲想に合った表現をするための技能はまだ不十分である。互いの演奏を聴き合う力を付けることが課題と考える。		・楽しく音楽とかかわる活動を通して、音楽づくりや楽器の演奏の仕方等、音楽の基盤となる能力を経験的に身に付けるようにする。 ・小グループでの活動や演奏発表の場を設定し、一人一人が楽曲の曲想や構成について意見をもち、より良い演奏を目指せるようにする。	・各学年に応じた内容で、曲想と旋律の特徴とを結び付けながら音楽を感じ取る学習を展開する。 ・演奏するために必要な技能を学年に応じて丁寧に指導する。 ・友達と音を合わせる楽しさを十分に味わわせ、音楽を通して友達と関わることを大切にしながら、音楽について意見を交わし、自分の演奏に生かせるようにする。		
図工	・全学年、造形活動を行うことが好きで、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。表現や鑑賞の活動に前向きに取り組み、よく考え素直に表現する力がついている子が多い。 ・表現することは好きだが、材料や場の違いを味わいながら表現を深めていく、追求する活動には結び付きにくい。また、人工的な材料だけでなく土や風など自然の材料にも触れ様々な経験をすることが今後の課題と考える。		・材料や場、友達とかかわる中で、ものづくりの楽しさを味わう。また、表現することの良さや価値を見つけ認め合えるような力を、活動を繰り返す中で身につけていく。 ・みんなでつくる難しさや協力する素晴らしさを味わう中で、「共生」できるよう互いに認めあえる児童を育成する。互いの良さや違いに気付けるようにする。	・児童の実態に合わせ「感じるー考えるーかかわるー表す」という流れが何度もスパイラル状に続いていくような題材を検討しテーマ、材料、場を厳選し授業を行う。 ・「ねらい」の明確化と言葉による「ふりかえり」を毎授業で取り組む。考えたこと、試したこと、うまくいったことなどをはっきりして、習得したことが積み重なっていけるよう意識し学力の向上を行う。		
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は 2 ページ以上となってもよい。